

5月度学術講演会

日	時	令和5年5月20日(土)
演	題	患者さんの人生を守るこれからの糖尿病治療
講	師	大阪公立大学大学院医学研究科 代謝内分泌病態内科学 准教授 森岡 与明
出席者数		24名
担	当	富永良子
共	催	住友ファーマ株式会社

講演要旨

糖尿病治療の目標は、合併症の発症進展を阻止し、糖尿病のない人と変わらない寿命と QOL を実現すること、つまり「患者さんの人生を守る」ことにある。

(1) 近年の糖尿病治療薬による心血管アウトカム試験においては、対照群でもイベント発症率が過去の成績よりも格段に改善しており、危険因子に対する標準的治療の重要性があらためて浮き彫りになった。日本糖尿病学会は、日本人の病態や処方実態を踏まえて「2型糖尿病の薬物療法のアルゴリズム」を2022年12月に作成し、より安全で有効な糖尿病治療の普及をめざしているところである。

(2) わが国では、2型糖尿病に対する第1選択薬の約80%をDPP-4阻害薬またはビグアナイド薬が占めている。両薬剤はインクレチン作用の増強やグルカゴン作用の抑制といった機序を共有しており、併用によるメリットが期待される。海外データであるがVERIFY試験では、診断後早期の2型糖尿病患者において、DPP-4阻害薬ビルダグリプチンとメトホルミンの併用療法が、メトホルミン単独療法と比較して、長期にわたり良好な血糖コントロールが維持されることが示された。本成績は、できるだけ早期にHbA1c 7%未満の良好なコントロールを得ることの重要性を示しているともいえる。近年上市されたイメグリミンは、ミトコンドリア機能の改善によりインスリン分泌障害およびインスリン抵抗性を改善させる糖尿病治療薬である。腎機能障害例や高齢者への投与、またメトホルミンとの併用の際には注意を要するが、低血糖や体重増加を来すことなく血糖コントロールが可能な点からは、安全かつ有効な糖尿病治療への貢献が今後期待される。

(3) 糖尿病の動脈硬化には、古典的心血管危険因子以外の様々な因子が関与することが近年明らかとなっており、我々は慢性腎臓病において重要視されるリン代謝異常に着目している。最近の研究において、腎機能障害のない2型糖尿病では血清リン濃度が基準値内であっても、リン排泄ホルモンであるFGF23の血中濃度が高いほど血管平滑筋機能障害が進んでいることを明らかにした。血清FGF23濃度でみた生体へのリン負荷が糖尿病の血管障害に関わることを示唆する成績であり、リンや骨代謝に着目した食事療法や糖尿病治療が今後重要になってくるかもしれない。糖尿病学会では、これからの糖尿病治療がめざす方向として、個々人の病態に基づいた個別化医療を示している。標準的治療の普及のその先にある個別化・最適化治療をめざして、我々も今できる「患者さんの人生を守る糖尿病診療」を地域・多職種で連携して進めていきたい。